

平成 30 年 8 月の解説（週間天気予報）

【8 月の天候状況】

上旬は、北海道地方では 7 日にかけて晴天の続いた所がありましたが、東北地方では、秋雨前線や台風第 13 号の影響で曇りや雨の多くなった所があり、5 日は東北地方に秋雨前線が停滞したため、山形県金山（かねやま）で日降水量が 300mm を超えるなど、記録的な大雨になった所がありました。また北日本では、5 日以降、寒気が流れ込んで気温の低い日も多くなりました。一方、東日本や西日本は晴れて気温が顕著に上昇した日が多く、東海地方では日最高気温が 40 を上回る地点もあり、岐阜県美濃では 40 以上の日が 3 日間続くなど、上旬の 10 日間すべてで猛暑日となりました。8～9 日は、台風第 13 号の影響により東北南部の太平洋側を中心に大雨となった所がありました。沖縄・奄美は、台風第 12 号の影響により 3 日頃まで曇りや雨となりましたが、その後は高気圧に覆われて広く晴れました。

中旬は、北日本は秋雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、15～16 日は深い気圧の谷の通過に伴って秋雨前線の活動が活発になり、記録的な大雨となった所がありました。東日本と西日本は、日本海側を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、15～16 日は南からの湿った気流により大気の状態が不安定になって局地的に大雨となった所がありました。沖縄・奄美では曇りや雨の日が多く、12 日は台風第 14 号の影響で、15～16 日は台風第 18 号の影響で、それぞれ大雨になった所がありました。旬前半は西日本と東日本では引き続き気温が顕著に高くなりましたが、旬後半は大陸から東に移動してきた冷涼な高気圧に覆われて全国的に気温が平年を下回る日が多くなりました。

下旬は、北日本は秋雨前線や低気圧の影響を受けやすく、日本海側を中心に曇りや雨の日が多くなりました。東日本と西日本は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、台風第 19 号や台風第 20 号、秋雨前線の影響で曇りや雨の日もありました。23～24 日には、台風第 20 号の影響で西日本を中心に大雨や暴風となった所があったほか、日本海側ではフェーン現象により気温が顕著に上昇し、新潟県中条（なかじょう）では 23 日の日最高気温が 40.8 に達するなど北陸地方で統計史上初めて 40 以上を記録しました。このほかも多くの日で、東日本と西日本では気温が顕著に上昇した日が多くなりました。30～31 日は秋雨前線の活動が活発になったため、北日本日本海側と東日本日本海側では大雨となりました。沖縄・奄美は、台風第 19 号や熱帯低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、特に 21～22 日は台風第 19 号の影響により、奄美地方は大雨や暴風となりました。

月平均気温は、東日本と西日本でかなり高くなりましたが、北日本と沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、北日本日本海側と東日本日本海側、沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側で多かった一方、西日本日本海側ではかなり少なく、東日本太平洋側と西日本太平洋側では平年並でした。月間日照時間は、西日本でかなり多く、東日本太平洋側で多かった一方、北日本日本海側では少なく、北日本太平洋側と東日本日本海側および沖縄・奄美では平年並でした。

【8 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値（注）より 2 ポイント高い 68%でした。各地方の適中率は、北海道地方と関東甲信地方、東海地方以外では例年値を上回り、特に九州北部地方では例年値よりも 10 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.1 大きい 2.4 で、東北地方と中国地方、四国地方、沖縄地方では例年値を上回りました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.1 大きい 1.7 で、北海道地方と近畿地方、九州北部地方、九州南部地方以外では例年値を上回りました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に短くなり、気温も急激に下がっていきます。10月は晴れる日が多く、行楽の機会も増えますが、気温の変化が大きい時期でもありますので、週間天気予報を利用する際には天気だけでなく気温にも注意して下さい。また、北日本や本州の標高の高い山では雪が降ることもあります。週間天気予報で予報される気温は平野部を対象としていますので、平地は秋でも山は冬に近づいているということにもご注意ください。